



飛行機を楽しむ one

会員 しょう 莊 美奈子 <54期>

私は幼い頃から鉄道を始めとする乗り物に興味があった。ローカル線の車窓から吹き込む未知なる土地の風、いつも見慣れた線路の先に待っている見知らぬ土地…自分を旅に誘おうとするかのように響く車輪の軋む音が耳から離れなかつものである。

私が今楽しみとしているのは、飛行機を楽しむこと、そして飛行機に搭乗して（日帰りであるが）日本各地の古い町並みを散策することである。ハイテク集合体から降機したら一転、歴史に思いを馳せながら味わいのある武家屋敷群、漆喰の白壁眩しい蔵屋敷群を散策するギャップが何となしに面白い。飛行機ファンには、写真撮影派、搭乗派、メカニカル派など色々な趣向の方々がいるが、私はさしづめ「旅情搭乗派」といったところだろうか。また、私が航空ファンの道に足を踏み入れてからまだ僅か2～3年であるが、次第に飛行機を愛する仲間達との交流が増えて、今ではエアラインパイロットの友人、知人も何人か居る。時折酒宴などで、「いや～この前関空で RWY（滑走路）24 にアプローチする時に、前の○○航空の B6（ボーイング 767 型機）が遅くてねー」「広島の RWY10 への進入は高度処理が難しいから…」等々、実際の乗務での裏話を伺えるのはファンとしてとても楽しく、またプロの厳しさを垣間見るひとときもある。

国内で旅客機の豪快な離着陸を至近距離で楽しめる場所としては、近場では城南島海浜公園が挙げられる。ここでは羽田空港 RWY16、RWY22 へ進入する機体が頭上近くを飛来し、かなりの迫力を堪能することができる（なお、RWY16 の「16」とは、真北を $0^\circ = 360^\circ$ とし、磁方位 160° 方向に伸びている RWY のことである）。また、ちょっと手を伸ばせば着陸機のお腹が触れてしまいそうな大迫力ポイントとしては、伊丹空港の RWY32 手前（通称：千里川土手ポイント）に勝る場所は類を見ない。休日とも



2004年11月13日、退役間近のYS-11に搭乗するために沖永良部島へ日帰り訪問した際のものです。

なれば人々で大賑わいで、伊丹便に搭乗すれば着陸直前に眼下に観客を臨むことができる。他に、珊瑚礁の海をバックに着陸機を見上げる那覇空港南側の瀬長島、離島への足である SAAB340b 型機等のコミューター機や引退間近の YS-11 型機が蜜蜂のように飛び回っている鹿児島空港展望デッキも私が気に入っている場所である。この時、“All Nippon 57, Taxi into position and hold (全日空 57 便、滑走路に入り待機して下さい)”など、携帯しているエアバンで ATC (航空交通管制) を聞きながら航空機の動きを見ていると臨場感が味わえてとても楽しい。

また、機窓からの眺めが楽しい路線としては、左手に穏やかな錦江湾と雄大な桜島を眺めながら進入する鹿児島線（とりわけ黄昏時は言葉を失うほどに美しい）、同じく竜飛岬や函館山、五稜郭を左手に進入する函館線（空が群青色に染まる頃には、百万ドルの夜景も加わる）は一度味わうと忘れられない。出張でよく搭乗する羽田発の広島線も、左手に映る瀬戸内の多島海、そして尾道の町並みを眺めることができ私の密かな楽しみである。

飛行機を利用しての出張は、私にとっては願ってもない楽しみでもあるのである。